

2019 年 10 月 6 日

2019 年 7 月 参院選モニター 「報告」

NHKを考える東海の会は、2019 年夏の参院選のテレビ放送に関するモニターを行った。モニターの対象は、NHKの「まるっと！」（月～金・18 時 10 分～19 時）と東海テレビ「One」（月～金・16 時 49 分～19 時）の名古屋ローカルの選挙関連の報道についてである。

国政選挙のテレビ報道モニターは、2016 年の参院選、2017 年の衆院選に次いで、今回が 3 度目。過去 2 回は、いずれも、在名古屋 5 局の夕方のローカルワイド番組をモニターの対象としてきたが、今回は上記 2 局に絞った。理由は、東海テレビ以外の民放局は、放送枠を前回より 1 時間拡大し、NHK との比較が量的にしにくくなっているためである。

いうまでもなく、国政選挙は、民主主義の根幹をなすものである。放送メディアが「健全な民主主義に寄与する」ことは、放送法に定められている。私たちが、放送メディアの選挙報道を重視し、モニター活動を続けている所以である。

前回 3 年前の参院選におけるテレビ報道をモニターし、私たちは以下 5 つの要請・提言を対象テレビ局にした。①「放送に携わる者の職責」を確認し、そのシステムを再検討、再構築する。②重要な問題・テーマについては独自の企画・取材を行い、解析して報道する。③政権与党による「争点隠し」に加担しない。④報道放送時間を十分にとる。⑤選挙期間中は無報道日をつくらない。

この提言・要請に対して、今回の参院選報道は、どうであったか。

1、まず目立つのが、NHK「まるっと！」の無報道日が 7 日と、選挙報道がない日のほうが多かったことである。（前回は、選挙期間中の無報道日はなかった）

東海テレビ「One」の無報道日は 3 日で、前回より 1 日減ったが、それでもなお、放送日数の 4 分の 1 を占めている。

延べ放送時間は、NHKが 26 分 04 秒（一日平均、1 分 42 秒）で、前回 100 分 26 秒より大幅に少なくなった。

東海テレビは、85 分 57 秒（4 分 28 秒）で前回 128 分 05 秒をかなり下回った。

在京地上波テレビ 6 局の参院選関連の放送時間は、エム・データ社調べによれば、6 年前が 49 時間 18 分、3 年前が 41 時間 30 分、今回が 36 時間 8 分と減り続けている。

2、テレビの選挙報道は、ローカル、全国放送とも、量的低下が著しい。

特に NHK 名古屋は、選挙報道をしない日のほうが多く、延べ放送時間は激減している。

モニター担当者のコメントには「今週の選挙報道は一日だけ、もう一週間しかないのに」「出さない理由は何かあるのか？」「50 分もあるのに、参院選直前に選挙関連の報道がひと言もない。低投票率を望んでいると勘ぐってしまった」などと、モニター期間中にはやくも低投票率を予想し、その原因がテレビ報道の激減にあるのではないかという問う声が飛び交っていた。

3、放送内容・質的にはどうだったか。

独自企画は、NHKは前回同様ゼロ。東海テレビは 4 回、35 分 10 秒で、前回 6 回、61 分を下回った。

東海テレビは、「投票に行こう！」を視聴者に呼びかけ、4 回にわたって放送した。内容は、「投票率」「ポスター」「年金の未来」といった「解説的」なものが主で、前回放送した

「争点の現場」といったルポ風のものではなかった。

モニター担当者のコメントでは、「東海テレビが“投票に行こう！”を番組のキャッチフレーズにし、シリーズで特集を企画・放送したのは、選挙報道に対する一定の姿勢をしめすもので好感が持てる」と評価する一方、「選挙の争点や候補者の人柄・活動のようすなどをもっと報道してもよいのではないか」、「有権者に選択材料を提供していない」、「投票選択に役立つ報道とは程遠い」、「新聞と比べ、各党・候補者の政策（憲法、消費税、年金）の争点・個々の違いを明らかにする“判断材料提供”の観点が弱く、調査報道の努力も見られない」と手厳しい感想・意見が多かった。

このように、モニター対象番組の質的低下は著しく、視聴者・有権者に選挙選択の判断材料を提示するというテレビ報道の使命をないがしろにしてしまったのではないか。

選挙報道に対して「冷淡」ともいえるテレビ報道は、政権の「争点ばかり」に一役買い、「投票率の低下」に拍車をかけたのではないか。

このことは、全国放送と軌を一にしているようで、中野晃一氏（上智大教授）は、「メディアの知的劣化が著しい」と今回の参院選報道を特徴づけ、「重要な国政選挙の争点を伝えないメディアは、自由と民主主義を下支えする言論機関としての自覚があまりにもなさすぎます」と指摘している。（「ジャーナリスト」第737号）

中島岳志氏（東京工大教授）は、東京新聞（7月31日）の「論壇時評」で、「今回の参院選挙のポイントは、投票率の低さにある」と指摘したうえで、この「低投票率」こそが、安倍政権の選挙の強さの源泉だ、という政治学者の中北浩爾氏の著書（自民党―「一強」の実像・中公新書）から引用している。「創価学会を支持母体とする公明党と連携し、友好団体・地方組織・個人後援会を固める自民党は、野党よりも固定票を多く持つ。投票率が下がれば下がるほど、相対的に優位な条件が整う。安倍内閣は投票率を下げて勝とうとする。だから、争点を明示しない。選挙を盛り上げようとしない。」

さらに中島氏は、「投票率を下げるためには、メディアが積極的に報道しないほうがよい。エム・データ社によると、民放報道は前回選挙から4割も減少しているという。有権者は、必要な情報を手にする機会を確実に失っている。」と指摘している。

そもそも放送は、「国民の知る権利を充足し、健全な民主主義の発達に寄与するもの」（放送法）である。そして、「選挙を通じて国民の意思を表明するという民主主義の過程を活かすために、放送現場のジャーナリストに求められる職責であり使命である」（BPO）。にもかかわらず今回の参院選報道は、この「職責」を自覚することなく、「健全な民主主義の発達に寄与する」情熱が感じられなかった。

今回のモニター活動を通しての感想を一言で言えば、テレビの「選挙報道」はどこへ行ってしまったのか？ということである。選挙報道に関しては、テレビジャーナリズムの意欲は全く感じられない。その責任は計り知れず大きいのだが、その自覚があるのだろうか。

3年前の5つの「要請・提言」どころか、その根底をなすテレビ報道の「知的劣化」「責任放棄」を追求しなければならないことを、今回のモニター活動「報告」の結論とせざるを得ないのはまことに残念である。

資料① 2019 年参院選 選挙報道モニター 日にち別一覧

	NHK「まるっと!」	THK「One」
7月4日(木)	公示、3県の立候補者紹介 6分15秒	公示、3県の立候補者・候補者第一声、投票率 2分26秒・17分03秒
5日(金)	無し(画面に期日前投票始まるの文字表示のみ)	投票に行こう、期日前投票 6分52秒
8日(月)	無し	若者のI票 5分40秒
9日(火)	無し	無し
10日(水)	無し	ポスター 11分45秒
11日(木)	愛知選挙区の選挙戦 8分06秒	乱戦愛知選挙区 13分14秒
12日(金)	無し	安倍首相激戦区三重へ 1分00秒
15日(月・祝)	無し(祝日のため、別番組)	諸派、無所属の候補者に焦点 10分08秒
16日(火)	三重選挙区の選挙戦 6分43秒	三重選挙区 6分56秒
17日(水)	無し	年金の未来、名立大学生に聞く 10分53秒
18日(木)	無し	無し
19日(金)	センキョわり 5分29秒	無し(開票速報予告のみ) (16秒)
選挙報道の有無	×7日(×1日)	×3日(2016年参院選・×4日)
選挙報道の延べ時間	26分33秒(100分26秒)	85分57秒(128分05秒)
候補者紹介、選挙情勢	3回、21分04秒(11回82分)	5回、49分47秒(5回53分)
独自企画	0(0)	4回、35分10秒(6回61分)

資料② 2019 参院選選挙報道モニター（コメント付き）

7月4日（木）

NHK	公示、3 県の立候補者紹介 ・演説の長さに長短はあったが候補者の趣旨の沿った編集で違和感はすくなかった ・公示と候補者の紹介であったので特に感想はないが、「NHKから国民を守る党」が各選挙区に 1 名ずつ立候補していて、今後どのようなとくひょうをするのかが気になった。 ・前半の紹介は、あっさり紹介（顔みせ）の感じ、後半で短時間だが横顔的な紹介を狙った。 ・岐阜選挙区の野党共闘は共産党が連合への配慮から一步下がっての応援をするなど共闘苦闘的な話題もあり、保守王国の壁にどこまで迫れるか興味をもたせた	6 分 15 秒
東海TV	公示、候補者の紹介、第一声、投票率 ・項目順が、大相撲、大雨、中学生いじめ、まとめニュースの後というオーダーに首をかしげる ・第一声は、一人当たり何秒と短く、ニュース編集者がどの部分を切り取るのか、難しいなーと思う ・候補者に同じ質問をぶつけるというショートインタビューは有効だが、三重選挙区の自民候補者の応答には 42 秒、野党統一候補には 17 秒というのはバランスをかくのではないかな？ ・最近の投票率低下をグラフで提示し、「投票に行こう」と呼びかけたり、投票選択に役立つ情報を毎日放送していきたいと呼びかけたりする局の姿勢に共感する。	19 分 29 秒

5 日（金）

NHK	無し（画面に、今日が入っているニュース 5 項目のひとつとして、期日前投票始まるの文字表示のみ） ・テロップだけでなく音声でも周知して欲しかった。 ・期日前投票の告知は、選挙に関心をよせて、投票を促す効果が少しはある。名古屋の 3 CHにはタイトルだけキャスターの左に表示されたが、本編にはなし。意図的に投票率を下げるとすると、NHKの本分に違反。	(18 秒)
東海TV	投票に行こう、期日前投票 ・「投票に行こう」の第 2 弾。期日前投票の仕方を、有権者目線で報じるもので、女性キャスターが自ら選挙管理委員会を訪ねてのレポートとインタビューを交えながらの解説はテレビの特性を生かしたもので、分かり易くて良い。 ・期日前投票に気軽に行けることは判った ・2 日目で選挙関係では飛びつく話題がなかったのか、党首も候補者も登場せず、政策の話もなかった。事前からの企画がなかった感じで、ちょっと淋しい。	6 分 52 秒

8 日（月）

NHK	無し（さらに今日入っているニュースの項目の字幕に一行「大学に期日前投票所」） ・5 日の期日前投票の告知と同じで、不自然である。投票意欲を挫く放送である。	(17 秒)
東海TV	若者の I 票 ・「投票に行こう！」キャンペーンの第 3 弾	5 分 40 秒

	・前回 2016 年の参院選の 20 代投票率 35, 60% (全体 54, 70%)、2017 年衆院選 33,85% (53, 58%) という数字に改めて考えさせられる。 ・スタジオでグラフを使っのプレゼンで、単純な演出だが、分かり易い。 ・東海テレビのローカルワイド「One!」は、延べ放送時間 131 分と、NHK「まるっと!」の 50 分の倍以上の長さだが、キー局やコマーシャル、リポートなどを差し引くと、正味 74 分間。対 NHK1, 5 倍以下であった。 ・若い人が「老後」の心配をしていることに注目 (自分の若者時代になかった発想)	
--	--	--

9 日 (火)

NHK	無し	
東海 TV	無し ・選挙報道無とは、残念無念 ・事前準備したものでもなんでも選挙に関する報道が欲しい	

10 日 (水)

NHK	無し ・選挙に関連した話題はゼロでした	
東海 TV	選挙ポスター ・ポスターという身近な話題で、選挙に興味を持たせようという工夫、なるほどと思う。	11 分 45 秒

11 日 (木)

NHK	愛知選挙区の選挙戦 ・各政党とも、政策はスローガンのものばかりで、詳しい内容はほとんど伝えていない。各党の紹介的な意味ということであろう。有権者に選択材料を提供しているとは思えない。来週はもっと詳細がきけることを期待する。 ・主要 7 党は、約 50 秒間にまとめている。 ・自民党の安倍首相は愛知にまだ来ていないのか?	8 分 06 秒
東海 TV	乱戦愛知選挙区 ・エピソード風に扱い、候補者の特徴をあぶり出すのもアイディアか?	13 分 14 秒

12 日 (金)

NHK	無し ・今週の選挙報道は一日だけ、もう一週間しかないというのに、前回よりかなり少ないのではないか。出さない理由は何かあるのか?	
東海 TV	安倍首相・激戦区三重へ ・各党代表を順次取り上げるのだろうが、今日は自民党の安倍首相のみが旧民主党政権を批判し、自民党の政策を訴える。どう公平を保つのか、今後の報道を見守りたい。	1 分

15 日 (月・祝)

NHK	祝日の番組編成で「まるっと！」は休止	
東海TV	完全版！諸派候補・愛知選挙区に立候補している諸派・無所属 5 人の個性的な主張と活動を紹介 ・N国、オリーブの木、労働者党、安楽死の会、無所属の 5 人を一定の時間をとって、丁寧に紹介するのは他のテレビ局では見られない貴重な試み、悪くない。 ・「NHKから国民を守る党」は一応国政選挙を意識していると感じたが、政見放送収録の際の職員が異様に丁寧と笑うなどふざけ過ぎてる感じがしました。他の候補者は好きなことを主張しているだけで、他の年金や改憲といった大事な政策は無視・・・などこれで国政選挙に出馬してるの？と言いたくなるほどでした。これで選挙関連報道なんですね・・・。なくても良いと思いました。	10 分 10 秒

16 日（火）

NHK	三重選挙区の選挙戦 ・切り取りは、芳野候補は昼食風景など内容に迫っていないものが大半で、3 人を公平に扱っていない。 ・リポートの切り取りにも問題があるが、一番問題なのは芳野候補を「立憲民主・国民民主党の 野党統一候補」と紹介していたことで、字幕でも 推薦 立民・国民となっていた。 ・吉川がいくつかの政策を紹介しているのに比べて、芳野の政策紹介は少ない。昼食風景などに時間を使っている。 ・芳野の紹介で、野党共闘という言葉はあったが、支持政党は立憲民主と国民民主のみの表示をスーパーし、応援も立憲の蓮舫と旧民主の岡田の 2 人、アナのコメントでも共産党、社民党という言葉は全くなし。共産党や社民党も芳野支持でがんばっていることが有権者につたわない。	6 分 43 秒
東海TV	三重選挙区の選挙戦 ・ニュース枠が拡大し 2 時間 10 分もあるのに、公共性が最も高いローカル選挙報道にはたったの 6 分 20 秒しか使っていない ・全国ニュース枠で各党の党首が演説しているためか、三重選挙区候補者の政策や人柄を訴える時間がごく僅かしかなく、有権者の投票選択に役立つ報道とは程遠い ・有名なオオモノ政治家が応援に入った映像はもっと短くして、候補者の政策を訴える内容を伝えることに重点を置くべきだ。 ・有名人の顔見せ映像は、候補者に対する国民の知る権利にあまり役立たない。 ・選挙風景のレポート。ニュースの一コマとして扱っているのか。有権者との関係で言えば、ストレートニュース風だけでなく、それなりの工夫がほしい。	6 分 20 秒

17 日（水）

NHK	無し ・50 分もあるのに、参院選直前に選挙関連の報道がひとつもない ・低投票率を望んでいると勘ぐってしまった	
東海TV	年金の未来・若い人から見た年金 2000 万円問題 ・若い人の討論・発想はいいし今後発展させてほしいが、提示内容などもっと研究してほしい ・これをテレビで見ている人はどんな感想か。ひとつの手懸りと見るか、10 分間のニュース枠ではむづかしいのでは ・年金問題と若者の意識をテーマにしているのだが、各党の政策を簡単なボードで紹介、簡単で、短時間の提示で中身がよく伝わらないのが残念	10 分 53 秒

18 日（木）

NHK	無し（6時30分からの岐阜ローカルでは、岐阜選挙区の選挙戦、参院選選挙メモ⑧「供託金」を放送） ・この時期のテレビの役割ってなんですか ・前回までの国政選挙では岐阜や三重の選挙区についても、愛知を含んだ3県向けの放送をしていた ・1三重選挙区については16日に放送していたが、なぜ今日、岐阜選挙区をやらないのか不可解である。理由を知りたい。	(岐阜単 7分07秒 1分19秒)
東海TV	無し	

19日（金）

NHK	センキョ割 ・4日間をモニターをしてみたの感想 ①「まるっと」は、ローカルな様々な情報を提供する番組で、選挙期間中のモニターの対象としては、あまり相応しくないのではと思いました。勿論、選挙関連の報道がゼロの日が多い放送局の姿勢が問題ですが。 ②選挙期間中は、選挙の争点や候補者の人柄・活動のようすなどもっとほうどうしてもよいのでは？ ③NHKなごやのテレビ放送の現状を垣間見ることができました（ニュースとして切り取る内容が貧しく、もっと視聴者に伝えることはある筈なのに同じニュースの繰り返しも多く 情けない限りでした！） ・有権者に選択肢を提供するという意味では、今日もやらなかった（放送時間は十分あるのに） ・17日ある期間中で「まるっと」は11回放送されたが、今日も含めて3回だけ、しかも今日は選挙報道とは言い難い内容である。争点になっている年金や憲法について有権者に判断材料を全く提供していない。背景に何かあるとしか考えられない。	5分29秒
東海TV	無し（開票速報の予告のみ） ・東海テレビは日ごろほとんど見ません。ニュースを見たのは本当に何日ぶりかですが、選挙報道は、いつもこんなものか。あるいは今年は何か事情があるのか？ ・「投票に行こう」を番組のキャッチフレーズにし、シリーズで特集を企画・放送したのは選挙報道に対する一定の姿勢を示すもので、好感が持てるが・・・ ・選挙報道の貧弱化は量・質とも目に余る ・NHKと東海テレビは、新聞と比べ、各党・候補者の政策（憲法改正、消費税増税、年金）の争点に対し、どのような考えを持っているかを個々の違い明らかにする「判断材料提供」の視点が弱く、新聞のような調査報道の努力も見られない。 ・ただ、候補者と応援弁士の映像を単純に均等配分するだけで、ジャーナリズム性、公共性の視点が全く弱い ・放送ジャーナリズムは、NHKが安倍政権に付度していて大問題だが、民放局数はNHK総合の5倍あり、ニュース時間枠もNHKより大きいから影響力もNHKの5倍以上ある。 ・今回のモニターは、NHK以外はTHK一局に絞ったが、我々の手抜きではないか。前回はNBNが調査報道をして他者をリードして多少光ったが、THKには光る内容が無い。 ・モニター結果は、NHKだけで無く、モニターした民放全局にも面会して「モニター報告と選挙報道の要望」を局に提出し、各局の放送の公共的価値を高めれば、我々の存在価値が高まるはずだ。 ・今秋には、10/22天皇即位礼正殿の儀、祝賀御列の儀など国事行為が続くが、春と同じ祝賀一色、憲法に基づく国民主権を無視した報道、安倍政権の天皇の政治利用にならないか監視（モニター）が必要だ	